

運輸交通部会長報告

6月25日、運輸交通・観光料飲の部会員20名が出席して開催しました。今回は、秋田港港湾計画改訂案のほか、クルーズ船受入事業や国・県のインバウンド対応事業について、関係各所からゲストを招き、それぞれご講話いただいた後、「インバウンドの更なる増加に向けた対応策について」と題し意見交換を行いました。

【講話内容】

①「秋田港港湾計画改訂（案）について」

秋田県建設部港湾空港課 課長 菅原 純 氏

- ✓ 計画改訂のうへで、本港地区クルーズ岸壁－11mの整備と泊地浚渫、ふ頭面積拡大を目的とした臨港道路（13号線）の整備を事業化するため、国に対して強く要望していく。
- ✓ 地元の熱意が新規採択の大きな判断材料となることから、皆様からも強力な後押しをお願いしたい。

②「平成30年度 クルーズ船受入事業について」

株式会社秋田東北ダイケン 指定管理部統括マネージャー 川辺 健一 氏

- ✓ 30年度、県・市の秋田港クルーズ船受入業務を受託した。
- ✓ 秋田美人・秋田犬等を全面に押し出した歓迎イベントや、多言語観光案内サービスの実施、製作・体験型商品の展開等を計画している。
- ✓ 県民の参加を促し、地域が一体となった受入体制の構築を目指したい。

③「平成30年度 国が対応するインバウンド事業について」

国土交通省東北運輸局秋田運輸支局 首席運輸企画専門官 長澤 秀博 氏

- ✓ 国では、2020年訪日外国人客4,000万人を目標に掲げ、ストレスフリーな受入環境の整備に向けた様々な事業を実施している。全国共通交通系ICカードの普及のほか、インバウンドに関するビッグデータの分析・活用、円滑な出入国に向けた環境整備、ICT等を活用した多言語対応、Wi-Fi整備、手ぶら観光の推進等に取り組む。
- ✓ 秋田においても、JRのクルーズ列車と連携し、域内での相乗りタクシーや観光旅客船を活用した男鹿半島周遊コースの実証実験を今年度実施する。

④「平成30年度 県が対応するインバウンド事業について」

秋田県観光文化スポーツ部 インバウンド推進統括監 益子 和秀 氏

- ✓ 国際航空路線の拡充と併せ、県内観光のキラーコンテンツを創出し、FIT（外国人個人旅行者）の増加を図っていく。
- ✓ 併せて、アキタノNAVI掲載情報の充実や二次アクセス強化により、受入環境の整備を図るとともに、Facebookやinstagram等を活用したデジタルプロモーションを通じ、リピーター客の増加に繋げたい。

【意見交換内容】

■外国人観光客の利便性向上について（電子マネー等の導入促進、てぶら観光の推進）

- ・全国共通 IC カード等の導入促進によるキャッシュレス化を、バスやタクシー等に広く普及させることは、インバウンド対応に不可欠であるが、秋田は導入が最も遅れつつある。対応策を検討しているようであれば教えて欲しい。

→秋田市とバス事業者が主体となり導入を検討しているが、イニシャルコスト、ランニングコスト双方の問題で導入実現に至っていない。他のバス事業者でサーバーを導入したいというところがないか、あればサーバーを共有することで負担軽減ができるというところまで検討している。

- ・現在の手ぶら観光は、宿泊先まで荷物を届けるだけだが、さらに進化させて欲しい。例えばスイスでは鉄道駅で飛行機のチェックイン・手荷物の預け入れができ、手ぶらで観光した後、直接出国手続きに進める。

→てぶら観光について、実証実験を出来ないかという話が観光庁の中でも出ている。今回の取組も検証しながら、最終的にはスイスの事例を目指せればと思っている。

■宿泊対応について

- ・宿泊のインバウンド策について具体的な方向性が見えない。民泊や古民家の磨き上げなど費用がかからない対策でもいいと思う。

→団体客の受入については、地域の複数店舗が協力し対応する手法も考えられる。また、民泊に関する条例をしっかりと整備し、民泊をもっと活用できるようにすべき。

■観光客の動線分析について

- ・兵庫県で Wi-Fi を活用し観光客の出入りを解析した事例がある。国県で同取り組みがあれば教えて欲しい。

→アキタノ NAVI 利用者の動線を解析できることから今年試験的に実施する。

■クルーズ客の対応について

- ・クルーズ船客をリピーターに繋げるには、秋田の魅力を事前に情報発信し、船から降りてもらい実際に体験してもらうことに力を注がないといけないと思っている。

→船川に高級クルーズ船が寄港する際に、ドイツ語で男鹿観光のストーリーが分かるパンフレットを前日に船内で配ってもらい、大変好評だった。

→クルーズ列車で男鹿駅まで来て、男鹿から観光旅客船を出す計画は出来ているが、さらにもう一歩進め、飛行艇で男鹿半島を一望できる観光メニューを作れないか国でも検討いただきたい。数年前、境港で実現している。

■観光プロモーションについて

- ・東北に来ている中国便は仙台便と青森便だけ。青森便を運行する奥凱航空に対し、北東北周遊ツアーの企画が出来ないか、青森、秋田、岩手が連携し提案している。
- ・広州など南側で訪日旅行のマーケットが成熟していることから、現地旅行会社に秋田ツアーを提案している。

以上が運輸交通部会からの報告です。